

791.5
廿







茶道空歸卷之五

目錄

茶碗

天目臺

茶抄

連水

食器

菓子器

煙草盆

同小道具

燈燭具





聚樂燒歷代

集雜

會器

敷木

茶鉢

天目盃

茶碗

目録

茶道全歸卷之五

茶道全歸卷之五

○茶碗之部

天目類 建安縣天目山  
陸一物及天目

曜夜

星のよりに致しは天目の中を曜夜

附皮盃

龍甲の中より出来たる為より梅龍の皮杯

或之文字を以て

油滴

茶碗の茶の垢を以て油滴

灰被

アウを以て茶碗を以て灰被

茶汁

茶汁を以て茶碗を以て茶汁

烏盃

色の黒く出来たる

木

ノキの皮を以て



黄 茶偏りの端は黄をとり

建盞 ケンアレン 建安縣の盞といふ事ありいづれのものも村

と建盞と名づく

瀬戸 セト 瀬戸を天目と字しき物あり

○善磁と類

雲鶴 ウンカク 善磁の中をよめて古く引本朝程と云

物世よるなり

珠光 シュウカウ 珠光所持三井傳あり何れも是より似たり

きよふ物と云なり

人形子 ニョウゴ 人形の子とも人形の子とも

競明 ニョウメイ 茶碗の縁はサハリフクリとの入きも有り東山殿

古時代甚重寶しき物なり天目も名く

○漆付之類

古漆付 利休紀三井ちの番炉と茶碗又用あり

其外雲堂 松竹梅 唐花竹も古漆付あり

○虫食

○祥瑞

○吳洲

○赤磁

○古赤磁

○金襴子

○宋桐緑

ハチノ子と云なり



○安南

○紅毛

○井戸

井戸は茶葉の類と云井戸を云と見ざる

○上品と云一慈川を上品に見ざる上品と云

名物子 ○小井戸 大井戸 小久の二つ 吉井戸

井戸類

慈川 コモガハ 朝鮮の地名なり

真慈川 河洞道 是も朝鮮の地名 慈川中の上流なり 鬼慈川 清慈川

右二島

礼賓子 は又字なり 歌三島 花三島

○刷毛目

古刷毛目

塚堰 古中より堰出しを新なり

朝鮮刷毛目

福刷毛目 古くを農に刷毛目なり

粉吹 古地刷毛目より似たり

○高麗 紹陽府より取中を 以て名物なり

割高草

絵高草

望子

本子



長崎 長崎某の以持節は長崎と遠州との書付あり

孤蓬庵より雲州へ行く状

雨偏

玉子子

鉢子

金海 朝鮮の地名あり

所所北 織部清本より節は織部より藤と書付あり

所所北よりとせ

。五器

紅葉

遊撃 遊撃將軍沈惟敬の子沈よりけり

と云々本所より雲州へ送るあり

大徳寺

難

番通

尼

持の帯 高尾持の帯に似たりけり 屋に似たりけり

一版古

汁く屋 螺汁く屋へ舶来したる物あり

伊羅保 元伯銘樊舎といふけり 道正庵に持

右イラボ 刷毛目イラボ 釘堀 黄イラボ

ツバ 井戸のツバと云ふあり



判事

船中印章と掌り人の役名之け人の持渡り

ハタツリ

判事判事ハモサシ人の名

御本

遠州時代日本より伝来するもの

鮮香

○和物類

○瀬戸

伯庵

伊勢津の匠師谷伯庵所作の

と云漢唐所蔵より半月番其玉に飛葉

英瀬戸

瀬戸玉

織部

織部玉

○唐津

真る羅

言はる人來りて唐津を焼く故に羅の方

若り奥と云り

瀬戸唐津

唐津の瀬戸と似るが成り

○萩

長門

言はる人來りて焼物

松本

地名 葉の質

深川

葉の質松本深川とも萩焼

○伊賀

備茶

○薩摩

右二茶とも遠州時代より茶盤と焼始る

○仁清



○清水 古清水より

○樂燒

代々田代

○子造類

○天目臺之銘

○唐物

尼ヶ寄臺の黒塗石付の内は紫の字はつる尼ヶ寄の

町家某は持より

敷臺 敷七の舶來は皆名物より内朱外黒サハリ縁

輪蓋 縁の紅塗よ似きき場より

青貝 翠刺

堆朱

○和物類

千ノ字 利休は持唐物黒塗土の字はつる子家は持より

本地 利休は持より

濁塗 利休は持より

一閑 先伯好千の字乃字

○樂長二郎七品乃茶盃

東陽坊 大黒 小黒 け三品より

際海 子舟 本守 持授 け四品ハ赤之

右七種の名物と次宗易より長二郎は命しを造り

しむ但し長二郎中義より入る石茶と求めぬ造り

交より







元伯より六湯文あり元伯以後は火文あり  
唐物公の舞よ

けりるを教人よする時を由りせり  
あらざるすくおる世にいと

いふへ葉抄とアリタメと云ふかあり流竹の夏に  
元伯より子の刺始りて如く并よむく葉刺と云  
とありて是より平咏抄初を刺始あり流竹は是ハ  
墨の目十二本を墨年よむを十二目の子刺りて  
あり刺始ありの本舞を山中氏に持あり簡に  
衆樂と有り

○遊水 本字受汚

○唐物金類

砂張 平コボシのけりあり

紺羅 砂張のうけりあり

棒先 右説不分明

合子 物とあり合あり 

骨吐 文字のどし

鉢子 則ち鉢のりあり

モウル金

○右條付

雲堂 松竹梅 唐花

○喜磁



獲瓦ノ蓋

○南蛮物

ノ切

内流業

○朝鮮

○急物

○羅拔

○安南

○同和物ノ類

○瀬戸

六脇指

利休所持黄瀬戸之

紀州所産

廿之力へ

利休所持捨貫多り

加州所産

○備前

信樂

伊賀

丹波

金物

曲物

○食器之類

付菓子蓋

利休書をハコトクニ朱梳より利休

朱梳と用也未も兼用

朱塗丸梳

坪平付大小とも利休

朱塗上子

利休於坪外蓋又内フタも坪平内

蓋多り



玉塗基筒梳 利休形汁飯梳とも基筒底有り

坪平平 利休形茶入茶入

玉塗一字梳 坪平付大小とも利休形

朱丸梳 坪平付玉ツハメ利休形

吉野梳 坪付 利休形苜蓿梳と云々上あり下あり

苜蓿の花より親梳より玉塗基筒底坪より好之

を以茶より子の坪平と用也

面桶梳 利休形いづきもウルと外蓋蓋盛より

坪平より丸梳とかり用也

輪廣梳 朱玉ツハメ江岑門人利休形の菓子梳の

以持也菓子茶のよき一人あり

江岑と正午より承りしは菓子梳は飯汁は

出さし江岑感賞しを坪と飯梳と好む

汁梳も菓子梳と好む

精進梳 利休形番基の内いづきも玉平内蓋様子

唐玉 菓子唐玉 刻鉢 皆朱 但し茶舎よりあり

付飯器も用也折角朱角切より玉懸坪あり

細絵梳 原豊好紀別産より加別産へ進せしれ

の好より朱玉玉細の絵より坪あり 平内

二の梳 汁梳よりあり 小あり 大平内フタ 吸拍梳 二の汁

梳よりあり 小あり 重箱二重 丸食籠 食次

湯次 湯盆 破ア長角隅きり 酒次 内絵 葉



子盆日形 二枚盆 盃日形 盃日形 二枚盃折菱

玉角切くまのの通りくまの朱ツハメ

糸目梳 如く好腰くまの添くまの一五等用くまの外の席くまの

兼用くまのの坪平くまの丸梳くまの一文字梳くまのの内くまのと飯用くまの

四式くまの ○ 吸物梳くまの之分くまの

むくまの丸梳くまのの好くまのを本くまの地くまの序くまの

篠くまの 仙叟好朱。糸底玉くまのウルくまの之くまの原叟好

喰初梳 松竹鶴くまのの絵くまのを利くまの体くまの於くまの夕くまの敷くまのを原叟好

夕類梳 仙叟好ハくまの夕くまのワくまのリくまの夕類くまののくまの絵くまの

細ノ絵 小くまの之くまの原叟好。喰初梳くまの於くまのハくまの夕くまの敷くまの好

ハくまの夕くまのワくまのリくまの原叟好ウルくまの之くまの煮物梳くまの又くまのかり用くまの

菓子梳 朱玉ツハメ利体くまの於くまの煮物梳くまの又くまのかり用くまの

○ 物敷くまの之分くまの

角くまの之くまのび 元来利体くまの於くまのの湯盆くまのより指くまの用くまのを以くまのて

仙叟くまのより始くまのる係くまのを曲物くまの敷くまのと湯盆くまのよりくまのらくまのしくまのてくまのも

然くまのるくまの玉くまの盆くまの

鑿目カシナ 利体くまの於くまの濁角くまの切力くまの十くまの同くまの

曲 利体くまの於くまの濁角くまの之くまのり

朱 利体くまの於くまの玉くまのツハメくまの盆くまの之くまのり

凸折菱 飛騨くまの化くまのよりくまのしくまの利体くまの於くまのり力くまの十くまのメ内くまの

椽皮くまののトくまのジメくまのワくまのり側くまの添くまのくくまのしくまのを折くまの合くまのせくまのるくまのり

吉野折菱 根くまの朱くまの化くまのるくまの鏡くまのを黒くまのハくまのケくまのメ側くまの朱くまのくくまの裏くまのを



吉野物炭と呼ぶ吉野松より

合以子家よ本新に

守月折炭の如く故好一宗化五クル之是糸目松

糸目松は

出寄益織部好濁塗蒔目裏玉丸

蒔目 ○食次

朱塗 黒塗 朱子付 黒子付 七色も利休形

細の絃 原更好子白子朱塗

○抄子

○此黒塗の黒の食次を用い朱を朱の食次

菓石餅 朱用也黒の子付よ於長さ之用也金を朱

の子付食次よ流ふを火色あり

○湯次

黒塗湯の子スクヒとも利休形あり又金乃

湯の子スクヒより金の湯次よ流ふと目

初より細の絃を朱の湯の子スクヒあり

○月唐金

金抄子流ふ利休形元サハリ深しを線家

銅提とつるを酒次あり

○酒次之分

塗 利休形内黒外漏松木地

錫 利休形徳利あり



銚子鍋 いししへき火よ熱く焔かととる茶ちのりりと織部

より席上しやうじやうと用也

同丸 角 丸も角も利休りきゆの茶ち又り蓋

同糸目 原叟げんそう好道こうだう命いのち作つく蓋かき二通にとうのり共蓋ともかき桐きりカラら州

石いし質しやう子こツマつまと字じ唐たう子こ法はふ付つ宗そう入い黒くろ石いし質しやう子こ撮と鉄てつ母ぼ

地ちツマつまと用もちあり

同平 啐せつ啐せつ好こう蓋かき子こ素す綱なう

同累坐 啐せつ啐せつ好こう茶ち又り蓋かき後ごろろ好こう茶ちと鉄てつフフ

と添そ西せい銘めい

同陰 利休りきゆの丸まる銘めい鍋なべの通とおり鉄てつの上のうへと茶ち塗ぬりり

○ 盃さきと分ぶん

八はち 織部おしべの蓋かきと酒さけと香かぐと利休りきゆ

○ 合あひと銘めいと盃さきと好こうむ

銘めいと盃さき 利休りきゆの茶ち塗ぬりり

萩はぎの縁えり 原叟げんそう好こう火か小せうと茶ち塗ぬりり朱しゆ刷し毛もう目めと茶ち塗ぬりり

萩はぎの縁えり

執しやく 原叟げんそう好こう朱しゆ二にと茶ち塗ぬりり裏うらと茶ち塗ぬりりと執しやくと之これ

花はな石いし 原叟げんそう海かい船せん屋や善ぜん次じ方ほうと茶ち塗ぬりりと花はな石いしと茶ち塗ぬりり

一いち 依よ今いまと字じと朱しゆの一枚まい盃さきあり

○ 盃さきと分ぶん

黒くろ 朱しゆ 利休りきゆの茶ち塗ぬりりと盃さきと乃の糸いと編ありり朱しゆと分ぶん

樂らく燒やう金きん漏ろう 啐せつ啐せつ好こう



朱網絃 前より...

○八寸墨

松の木地 刺練形

松の木地 原豊好

漏入子 大小 原豊好

○重箱

漏刺練形 桐木地 漏塗二重 又同形を墨塗りの好

網 原豊好 二重網の絃の様に漆

○食籠

八角 丸 元伯好 一宗張 二寸とも内朱打墨八角

朱三重 一宗張 琉球拍子法 外朱内墨鏡を漆面

黄漆あり

網 原豊好 網絃の様に漆

青貝 唐物あり

権朱 唐物あり

○通盆

墨 刺練形 丸

一閑張 元伯好あり

坎の木地 刺練形 鏡へギ目

○湯盆

茶道茶躰卷之五

茶道茶躰卷之五

茶道茶躰卷之五

茶道茶躰卷之五



黒角之漆 利休好

酒 長角力之十目皮ト之墨付黒仙雙好

一采張 長角酒漆墨付黒原雙好

墨丸 元伯好今子家ノ用也 一書ハ不用トアリ

○菓子盆之部

縁高 墨又リ利休好。一采張元伯好

高ツキ 朱又リ利休好。朱ノ墨付一の丸之原雙

好。酒ノ原雙好。一より余程小ブリよりハ半庵

宗也好より

一采張 墨ハ如ク好角酒漆墨付黒原雙好

雅好。ナデ角墨如ク好より

○物菓子盆

一采四方 ヘギ目ハ墨元伯好ヘギ目ハ墨元伯好

砂張盆 南蛮 朝鮮

三足盆 利休好朱墨付墨

八角盆 朱塗墨ソハメ如ク好元来ハ唐物写シ

字の縁硯蓋 相本地錫縁字の縁花之相粉紫ハ紺

墨又リ宗全好

八角字の縁 相本地全粉ノ字の縁錫ヘリより

了く好

○煙草盆之部

○塗物類



繭子 如心紙好 真玉塗  
 コリ蓋 縁潤塗 漆塗 原叟好  
 糸巻 真玉塗 糸巻 不力 之 凡紅如心紙好  
 三ッ入 桐木地 玉懸合 元伯好  
 舟形 行字蓋 漆之 好 之 真玉塗 宗合好

○木地類

繭子 葉の木地 子付 如心紙好  
 フジ 葉の木地 あり 如心紙好  
 字庵好 葉の木地 葉も 共木を 唐子の 不力  
 行字蓋 原叟好 漆塗の 通り 之 葉木地  
 字庵好 中段は トーリ けス 板は 火入 灰吹 切込

下(煙子入といふもの葉の木地)

糸巻 如心紙好 去又リ、垂、之を 葉あり  
 木丸 元伯好 一宋張子付  
 釣瓶 元伯好 大小 何今用 中より 大の方あり  
 行字蓋 原叟好 漆塗の 通り 之 一宋張あり  
 三ッ入 一宋張子 有之 之 元伯好 あり 竹の 折子 何あり  
 宗全好あり  
 フジ 如心紙好 一宋張

○小道具類

○火入之方 元木を 唐子 七が 一冊也



○書磁

○法付物

○漆物類

○金類

○國燒

○樂燒

○累坐

○三ッ足

○八卦

○燵草入

○夕卜ウ紙

○書磁

○法付物

○漆物類

○金類

○國燒

○樂燒

○累坐

○三ッ足

○八卦

○燵草入

○夕卜ウ紙

挽物 如心好 櫛 木片

一閑ヲリタメ 宗全好 ちり

素 如心好 長角シヤリ蓋内室へ好之巻はよー

樂燒 宗全好 長角ヲトシ蓋上ニツマニツリ香炉累

初 宗蓋 合以

柳子 如心好 カキ合のニツ入ニ好む

○煙管

麻屋 唐 ちり渡り ちりちり の形文字以

筋 如心好 始て好む

書院 了 好 前 屋 ちり 大

○灰吹



善竹 茶舎又用也

白竹 常又用也為板も元編好あり

○小穴著 元、番著と用ひしあり

真鍮

砂張

茶柄 子家もてハ茶柄と用ひし

○燈燭臺

短檠 夫若元 為燈も利休形夫若元居士の内室宗

恩の好ありしとぞ二疊基目より一畳用也を基目切し

口を半切りの床の能蓋穴四長燈心を短檠と用ひ

竹藜 利休形地板松木焼油盆二疊基目より一畳用也

○仙叟好ハ切明の所長ハ外を利休形の通りあり

長嘯子の奇よ

おう紀日も中吳林はとり火を

芝のきりきり法さる瓜うらをよ

木燈臺 利休形松木柱松木基を松二枚を基組

油盞用しともうし加ふべ

茶燈臺 宗全好松木柱松木を茶焼を黄ッスリ

茶の好あり

同原叟好 坐アメ茶宗全好よりきりきり茶の教あり

を金入なり



結燈臺

加茂津茶より成ぬ秋かり用也但し一  
寸中の美濃布とコヨリと上より三寸み下  
月をみまムスビ二本茶けり火皿と一  
油盞も上より一寸はむゆる竹も皮付と用也  
。但し一室を中と用也

坐敷の燈

利休形松の木地竹の子火皿の上へ竹乃  
箱と一室の油盞と置く燈の景の湯よるかき  
けの燈と用也

露地の燈

利休形松の木地茶より覆蓋は黒又り  
火皿はホウツキを一枚の油盞と置く風よる  
覆蓋と置くなり

正月の燈

ぬい秋好大小のり大なるは黒小なるは白  
廣授よりして二品とばかり用也

竹の燈

啐啄秋好大臺ト子松のすり漆子秋を  
こへを紙のりを燈の二す

魚燈臺

元伯好竹油盞と用也  
利休形二枚去茶水盞の場と用也

手燭

利休形桐の黒塗  
啐啄秋好  
香磁 瀬戸 樂燒 唐炉クスリ 小坐敷席中より

小燈

小燈と用い度間と座中の手燭と用也

金入小燈

よく秋好香み郎能  
原豊好柱ケヤキ松手桐茶タニハシ金入



○四小道具

燈臺 覆繁露地灯も利休形

去蓋 灯籠水盆無燈臺灯も利休形。燈籠も亦好

火皿 覆繁利休形。灯籠呼咏歌好常炉業カキ免

カキタテ 月を口々目垣の控板

撥立 扇毛じり席中扱亭庭中も用也灯も利休形

油次 利休形扇塗るり

木燧籠 利休形茶障子後二日月右田月左半月

石燧籠 利休形其餘古さと堂院以

八角燧籠 利休形元末を 禁中も用いられりと

おわり用也扱亭書張八方小飾り

金燧籠

利休重形と用也鉄骨水の控板又利休形

燈クズしりの其餘古さと用也

○樂燒歷代

元祖館也

朝鮮人なり或説はアメヤを朝鮮の地名

を大永の頃日本へ渡り後よ鎌吉と云長二郎を

四代りりとも

尾燒

日本人法名貞林と云館也の妻なり

初代長二郎

館也の子なりといふ利休千氏は後を

旧姓田中と長二郎へを以て今も田中と氏と改文

録元年壬辰九月七日没以初年不詳

二代吉右衛門

長二郎の子なり豊太閤聚樂成造替



一 乃り〜と記吉老とよ命とを屋瓦と造りてむと  
 其賞と〜と天下一聚樂燒の号と賜し其の上字  
 の金印と下字ふけ印一入と〜と傳と〜とがふ入  
 たり改りて終失以落發〜と宗慶といふ其後よ  
 常慶よ改じ壽百歳と保つ頂妙寺且那實永十  
 一年乙亥八月廿九日没以

二代ノコカウ 俗名吉と満矣名ノコカウ法名道入

是より妙覺ち且那と成る明曆二年丙申二月廿日  
 没以 一統又明曆三年  
丁酉とけり未詳

四代一入 ノコカウの子なり俗名佐と満後吉老と  
 改じ法名一入元禄九年丙子正月廿二日没以

五代宗入 一入の吉老なり俗名吉老と享保元年丙午

九月二日没以

六代左入 宗入の實子なり俗名吉老と延享四年丁卯

四月廿三日没以

七代長入 左入の實子なり俗名吉老と明和七年庚寅

九月五日没以

八代得入 長入の吉老なり俗名吉老と病身改り入と

吉老と子く隱居しを佐と満と改め二十歳〜と

安永二年甲午十一月七日没以

九代了入 得入の吉老なり俗名吉老と

十代吉老と 了入の實子なり



十一 一説は長二郎能入長左馬と云ふ子一と若左と  
 といふ元祖館也是とる遠くやノシカウより神小活は  
 ノシカウの弟子道楽と云はりの信玄右左と云放落  
 一とて父兄の勅を受く浪花或る左海と云ふ不  
 定ははははと云其用ふ本の平右左文字より又入  
 の真子と云は清後又一元と云はりの是も改め北昭と  
 名をあらは其子孫は清一向と云ふ世に其子孫は清は土  
 族と云は清は清の家を任土族を任より又宗味と云はり  
 是ハ素人焼より 正保四年丁亥 二月八日没 其餘素人焼は光悦室中  
 乾山と云は竹也も亦焼はりの千家と云ふ子造は江谷と云  
 始より其後緒家宗道方より子造は江谷と云

○集雜

茶箱 桐<sup>ニ</sup>地大小とも利休形

茶<sup>ニ</sup>法茶箱 大とも利休形 小とも宗全好

一閑張茶箱 外漏内茶大小とも原叟好 小の方ニ斲

目<sup>ハ</sup>り<sup>キ</sup>を<sup>ハ</sup>峰<sup>ハ</sup>峰<sup>ハ</sup>好

相唐戸面茶箱 了く好

腰提 峰<sup>ハ</sup>峰<sup>ハ</sup>好 漏スリ漆ケヤキ 茶<sup>ハ</sup>地<sup>ハ</sup>物<sup>ハ</sup>袋<sup>ハ</sup>入<sup>ハ</sup>腰

提<sup>ハ</sup>子<sup>ハ</sup>竹<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>茶<sup>ハ</sup>物<sup>ハ</sup>筒<sup>ハ</sup>漆

茶<sup>ハ</sup>筥<sup>ハ</sup>筒 竹<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>唐<sup>ハ</sup>紫<sup>ハ</sup>檀<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>入<sup>ハ</sup>利<sup>ハ</sup>休<sup>ハ</sup>形<sup>ハ</sup>より<sup>ハ</sup>枳<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>曲<sup>ハ</sup>物

上<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>記<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>利<sup>ハ</sup>休<sup>ハ</sup>形<sup>ハ</sup>より

茶<sup>ハ</sup>巾<sup>ハ</sup>筒 竹<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>利<sup>ハ</sup>休<sup>ハ</sup>形<sup>ハ</sup>。漆<sup>ハ</sup>付<sup>ハ</sup>類<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>く



見臺 素木比利休好有り

脇息 素木を足し牡丹の取物有り利休好

衣箱 利休好素木を裾より子に梅の取物有り子に梅

風炉先の濫觴有り

風炉先屏風 利休好白張墨塗縁有り子紙炉風

屏風も通用

同金張付 利休好の通りを金張付に造らざる者

如心好又仏踏舟引の画にらも如心高好有り

同長片 仏豊好白竹押へ板縁利休好より一寸低し

同業捨梅 如心高好有り

同葎 如心好好有り

同乳桐 了く好好有り

同細代腰 了く好好有り

六枚屏風 利休好白張墨塗縁。全砂子に好有

了く好好有り

同葎 才法利休好の通りを葎を原豊好

勝手二枚屏風 利休好白張墨塗り縁

同葎 利休好有り

同細代 如心好好有り

屏風使紀響巻 唐金樂焼とも号く好好

置刀盒 利休好素木二腰あり腰板板 漆に印籠あり

の折釘二本上は素革の輪にり短刀とあり



河相系巻 原豊好有り

書相 利休は持の字一遠桐地袋のり

糸箱 桐玉を古さ物とを採家より用ふ物なりお侍

の書なりと云入るなり

掛子草笥 桐之利休形 櫃ハ元治子

文箱 焼杉利休形 結蒲黄四つ

同一宗片箱 呼喚好結茶の袋おサナ

数針基 松木地云慶如ん好好丸くしを思ふ十

文字なり

○着用類

十徳 利休より古し紹紗シヨの類

八徳 原豊より子家より用也紹縮緬の類

子巾 緋より原豊 利休茶を呼喚好。八徳着用

のその用也

頭巾 黒孺子毛之裏利休形

足袋 白蔦玉子 浅黄 緋より好呼喚好

茶と云のその炉風呂とも用也

巾籠 利休形を全粉雨籠の前松内全外是二重

同一閑 呼喚好好小言張内黒外漏の一重なり

提鞘 利休形紐花又四つ小刀を是切小刀は用也

鞘ゴマ竹節角紐付紫革

火步袋 利休形アツキ皮紐利休茶小刀ハ提鞘同



扇形に利休形十本立地紙銀スナゴ序面は胡粉を  
 引等序面を墨画の山水あり  
 〇如公秋好を親ホ子注竹上は第何の白紙は布  
 同歩あり  
 香袋 子家流流亦ありは持あり

子拭熟 葉金物望美給クサラカ之下は刻出あり  
 内は黄楊の揃一枚白紙のタトウ紙は包と古鏡  
 荷絵の家は入

桐火鉢 千家所持桐世に於桐のヲトと金返り  
 鳳凰の荷絵何の通箱の桐火鉢ありを古

好之知色次

利休形アシカウ善文郎此朱の瓢罎ハ宗

入写しあり

炭切取 竹を製以炉風呂二本何の緋帯ありを  
 何のくあり

茶道坐躰卷之五 大尾







此條

支那十四丁証歲送存書互

第 36/2/ 号

平成 3.11.22

聖和學  
園短大  
圖書館

79/5
十

五五五五五

全一册

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*



